

雨よけ・露地・抑制きゅうり梅雨時期の栽培管理

令和7年6月 日

J A ふくしま未来伊達地区本部／伊達農業普及所



気象経過と今後の見通し（仙台管区气象台 令和7年6月5日発表）

【1ヶ月予報】

天候（平均気温）：暖かい空気に覆われやすいため、向こう1ヶ月間の気温は高い。

期間の前半は気温がかなり高くなる見込み。

降水量・日照時間：ほぼ平年並の見込み。

【3ヶ月予報】（仙台管区气象台 令和7年5月20日発表）

6月：期間前半、天気は数日の周期で変わり、期間の後半は平年と同様に曇りと雨の日が多いでしょう。

7月：平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

8月：天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温：いずれの月も高い見込み。

降水量：いずれの月もほぼ平年並みの見込み。

作型共通



管理のポイント

曇雨天が続き、日照不足と着果負担で、草勢が低下してくる時期です。

①根の動きを弱らせない『根張り対策』をする。

②梅雨時期は、ハウス内を多湿にしない『風を循環させる換気』を工夫する。

③光合成を維持するために、『光が入る』ように工夫する。

1 根張り対策 ～梅雨時期は光合成量が減少し、着果負担がのしかかる～

梅雨時期は曇雨天日が続くため、同化養分が不足し、草勢低下や根の動きが停滞しやすくなります。根の動きを止めないように管理を行いましょう。

（1）かん水

マルチ内の土壌水分を確認しながら、こまめなかん水管理を行う。主枝がアーチ肩あたりまで伸びてきたら、積極的にベッド肩や通路にもかん水や施肥を行う。

（2）酸素の供給

①かん注（かん注機使用）

根の近くに肥料、水分だけでなく空気も送り込まれるので、発根が促進され草勢回復効果が高い（ただし、圧力が高すぎると根を切るので注意）。

②酸素供給剤の施用

過湿状態で根が弱っている時や、土が締まってきた時に施用することで、根の回復を図る。

資材名	使用方法
ネハリエース	20kg/10a を通路に散布
M・O・X	100 倍以上に希釈 1,000 倍以上/10a をベッド又は通路にかん水

(3) 発根促進効果のある資材の施用

収穫期間中は、着果負担がかかって新しい根が出にくくなるので、発根促進効果の期待できる資材（アミノ酸資材、亜リン酸資材等）を積極的に施用する。

こんな時	資材名	使用方法
梅雨時期の生育不良の時や着果負担で草勢が低下した時	アミノメリット黄 500 倍＋グリーンセーフプラス 1,000 倍	葉面散布
	ホップアップ 300 倍＋グリーンセーフプラス 1,000 倍 ※ 果形が悪い時も効果期待できる。	
	トミーネクスグリーン、トミーエボリューションなど	かん水
葉色が薄く軟弱に生育している時	アミノメリット黄 500 倍＋鉄力あくあ F14 5,000 倍 (鉄力あくあ F14 は7～10日間隔での使用)	葉面散布

※「鉄力あくあ F14」は、アミノ酸系肥料との混用で根張り向上が期待できる

(4) 敷きわら

梅雨明け前は、水はねの防止のために薄く敷く。梅雨明け頃を目安に、地温の上昇抑制、通路の水分保持のため厚く敷く。

2 草勢維持 ～梅雨明け後に力強い草勢とするために～

梅雨時期は『着果負担を軽く』して草勢維持を心がけましょう。また、この時期の整枝・摘葉は、傷口が乾きにくいので晴れ間や午前中に作業をしましょう。

(1) 整枝 ～草勢を確保するために、一度にまとめて摘芯しない！～

- ①生育期間を通して、常に生長点を3本以上残すようなイメージで管理する。
- ②下段と上段の側枝は、1節止めが基本。ベッドから高さ40cm程度の範囲にある垂れた枝やアーチの天井あたりで混んでいる枝は、随時整理をして風通し良く、さらに日光がアーチ内に入るようにする。
- ③中段の側枝の発生が悪い場合は、良い芯のものを2本程度力枝として確保する。

(2) 摘葉（葉かき） ～日当たりと風通しを考えて、『こまめに』葉かきする～

主枝摘芯までは、1日1株2枚までが目安。それ以降は過繁茂にならないように、積極的な葉かきを行う。摘葉した葉は、ほ場外に出して処分する。

積極的に葉かきをする葉	①アーチの肩付近の葉(混むと光が入らなくなる。蒸れて病気が発生しやすくなる。葉が重なり農薬が均一にかかりにくい。) ②上段で混んでいる所や側枝に重なる葉 ③黄変した古葉、病斑のある葉
-------------	---

(3) 摘果 ～着果負担を避けて株への負担を減らそう!～

不良果を見つけたら、小さい果実のうちに摘果して株の負担を軽くする。

不良果の種類	主な発生要因
尻細果	収穫初期の草勢の強い時、高温・乾燥など
尻太果	収穫中盤以降の草勢低下、高夜温、強摘芯など
くくれ果	高温乾燥、石灰・ホウ素欠乏など
曲り果	肥料不足、草勢低下、強摘芯など
流れ果	日照不足、過繁茂・過着果による養分不足など

(4) 追肥 ～窒素分量を控えめに、『こまめに』行って草勢を維持する～

800kg/10a 収穫ごとに窒素成分で 2.5～3kg/10a の施用が目安。

種類	施用の目安
粒状肥料 (硝磷安加里 S646 等)	収穫初期は2週間に1回、収穫盛期からは1週間に1回を目安として、窒素成分 2～3kg/10a 施用。
液体肥料 (トミー液肥グリーン等)	3～5日間隔、窒素成分 0.5～1kg/10a を 300 倍以上で施用。

※根の傷みが想定されるときは、1 (3) の葉面散布を活用する。

発根促進剤 (アミハート、新チャンス液など) も併せて施用する。

3 芯やけ・葉やけ・しおれ対策 ～梅雨の晴れ間に要注意～

(1) 芯やけ・葉やけ対策

葉からの水分蒸散を抑制する蒸散抑制剤 (プロテック α)、保水力向上資材 (アイスバリア) の予防散布又は晴天日が予想される当日の朝までに葉面散布する。

●予防に: プロテック α 1,000 倍、アイスバリア 500 倍

●急な対応 (当日早朝まで) に: プロテック α 100～200 倍、アイスバリア 300 倍

(2) しおれ対策

梅雨の曇雨天日が続くと、晴れ間の強い日差しに耐えられずしおれが発生するので、適宜遮光資材を活用する。遮光資材がない場合は、葉面散布等で対応する。

4 病虫害防除

ウイルス症状、ウイルス感染による萎れ・枯死が見られたら発生株は抜き取り、ほ場で処分してください。今後の多湿条件下では、べと病、つる枯病などの発生が予想されます。予防散布を徹底しましょう。

害虫ではアザミウマ類の発生が目立ち、引き続きアブラムシ類や、高温期にはハダニ類の発生が懸念されます。防除を徹底してください。

【アザミウマ類に登録のある薬剤の特徴】 別紙 1 参照

梅雨時期のきゅうりは軟弱に生育しやすいので、散布の際は、薬害に注意しましょう。

【薬害の出やすい条件 (例)】

薬害の出やすい農薬 (アミスター、カンタスなど)、高温時、日没前、日照不足、農薬の連続散布、混用、機能性展着剤の加用 等)

●農薬の使用にあたってはJAの令和7年度版野菜病虫害防除基準を参照し、補助簿に必ず記入して成分の使用回数を確認する。

5 各作型別ポイント

雨よけ栽培

ハウス内が高湿度にならないように、換気を行う。また、高温時は遮光資材を有効に活用する。低段の節間が短く、混みやすい傾向のため、収穫後は側枝を切り戻し、株元の風通しをよくする。

- (1) 妻窓、天窓があれば雨が入らないよう注意しながら、湿度を抜く。
- (2) ハウス内の空気が循環（換気効率向上）するように、2カ所（入口と出口）を開放する。
- (3) 晴天日は遮光資材を有効に活用する。遮光資材がない場合は、葉面に散水するか蒸散抑制剤を効果的に使用してしおれを防止する。

露地栽培

ほ場内に雨水がとどまることがないように、明きょ等で排水対策を万全にする。特に、アーチの中に水たまりができないように排水を徹底する。また、収穫開始までに根量が確保できるよう、根張りを優先した管理を心がける。

- (1) 雨天日が続くようであれば、積極的に粒状の肥料を施肥する。
- (2) 葉色が薄いなど生育が停滞している時はアミノ酸等の葉面散布を行うとともに、酸素供給剤や発根促進剤を施用する。
- (3) ベッドから高さ 40cm までの主枝果実と、果形不良果は早めの摘果を徹底する。

抑制栽培

ハウス内が高温高湿度にならないように、換気・遮光を行い定植する。蒸散抑制資材等を活用し、芯やけ・葉やけの防止に努める。

- (1) ベッド内の湿度を十分に確保して定植する。
- (2) 本葉 8 枚までは株元かん水を行う。
- (3) アブラムシ類、ハダニ類の防除を徹底する。定植時の粒剤処理を忘れずに！



6 きゅうりの姿（整枝・せん定）の基本形

雨よけ・露地きゅうり

- 15節位になったら、下葉から摘葉スタート。1日1回2枚までが目安。
上段のアーチの肩付近は、葉が混んでくるので、適宜、光が入るよう摘葉する。

- 10節位までの側枝は1節止め。

- ベッドから40cmの範囲の側枝・主枝の雌花(果実)は取り除く。
- 側枝が垂れ下がってこないようしっかり誘引する。
- 垂れ下がってきた側枝は切り戻しをする。

- 樹勢(側枝の発生状況)を見て、アーチの肩を目安に摘芯する。

上段（アーチの天井）は、混ませない。
～イメージは、チラチラ空が見える～

- 中段(腰～肩くらいの高さ)の側枝は、2節止め。
- 側枝の発生が弱い時は、力枝として1～2本摘芯しないで確保する。

中段は、良い側枝を確保する。
～イメージは、この範囲で収穫する～

下段は、実をつけない。側枝を伸ばさない。
～イメージは、主枝の枝だけの空間～

- 主枝摘芯までは株元かん水をしっかり行い、根張りを充実させる。
- 敷きワラを敷いて、水はねを防ぐ。土壤乾燥防止・高温対策にもなる。

- 適宜、休憩と水分補給をして、熱中症対策をしましょう。
- 農薬は、最新の農薬登録情報を確認して使用しましょう。
- 農地中間管理事業を活用し、地域農業を守りましょう。
- 収入保険制度・農業共済制度等を活用し、経営の安定を図りましょう。